



# あさまる通信

あさまる通信は毎月25日発行です。

第59号 平成18年6月

発行：習志野販売株式会社  
〒275-0016  
千葉県習志野市津田沼5-11-10 吉田ビル3F  
TEL 047-454-2355 FAX 047-454-2357  
URL <http://www.asamaru.com/>  
e-mail [info@asamaru.com](mailto:info@asamaru.com)

## 谷津干潟の日 制定10周年行事

◇谷津干潟の日作品展（特別展示コーナー）  
期間：5月30日（火）～6月18日（日）

●6月10日（土）の行事  
◇市民クリーン作戦（谷津干潟のごみ拾いとアオサ回収）  
時間：9:30～12:00 小雨決行  
持参：汚れてもよい服装、長靴、タオル、帽子、飲み物

●6月10日、11日の行事  
◇自然観察会（干潟の生き物の観察）  
時間：10:00～12:00 雨天決行  
両日とも9:30受付 先着50名  
持参：長靴、手袋、帽子、飲み物、ルーペ（あれば）、雨具

◇屋内観察会（プランクトンや干潟の生き物の観察）  
時間：10:00～16:00

◇市民参加模擬店（観察センター前広場）

●6月11日（日）  
◇講演会（レクチャールーム）  
時間：13:00～16:00

◇環境ウォーク  
時間：9:00～11:00 小雨決行  
集合：京成谷津駅前  
その他にも色々な催し物があります。  
お問い合わせ先  
谷津干潟自然観察センター 電話：047-454-8416  
バラ園のバラも見頃です。散歩がてらのぞいてみませんか？

## あさまるinfo

### ◆新習ふれあいパレットコンサート

日時：5月28日（日）14:00～16:00  
場所：新習志野公民館 多目的室  
内容：フォルクローレ（ラテンアメリカ民族音楽）、吹奏楽  
曲名：ムナパク、コンドルは飛んでいく、宇宙戦艦ヤマトほか  
入場無料 定員100名  
問い合わせ先：新習志野公民館 電話：047-453-3400

### ◆第一中学校PTAバザー

日時：6月17日（土）10:00～12:00  
場所：習志野市立第一中学校 体育館  
内容：手作りお菓子、野菜、日用品販売、喫茶コーナー等

### ◆第1回「これが演劇だ！」

見終わった後、家族に優しくしたくなる。笑い涙の物語。

日時：第1回 7月1日（土）14:00 開演  
第2回 7月1日（土）18:00 開演  
第3回 7月2日（日）14:00 開演

場所：習志野市民会館（本大久保3-8-20）  
出演：うわの空・藤志郎一座  
演目：「ただいま」  
チケット：前売券 2,000円 当日券 2,500円  
電話予約・問合せ先：習志野社会福祉協議会 福祉管理課  
電話：047-452-4161  
FAX：047-451-8211  
E-mail：[nashakyo10@seaple.ne.jp](mailto:nashakyo10@seaple.ne.jp)  
FAX・E-mailでお申し込みの場合は、氏名・住所・電話番号・希望公演日・枚数をお書き下さい。

### お詫びと訂正

58号の訂正の県名に誤りがありました。大杉神社の地名を「栃木県稲敷市阿波」と記載しましたが、「茨城県稲敷市阿波」です。お詫びして訂正いたします。

## ◆育児講座

5月17日（水）新習志野公民館で育児講座（全6回の初日）が行われました。これは6～12ヶ月の乳児とその母親を対象に、遊び、離乳食などの健康管理、赤ちゃんの心理、ベビーマッサージなどを学ぶ為に行われています。講師は保育士や保健師、助産士などの専門分野の人が招かれるので安心です。

会場には15組の親子が集まっていた。赤ちゃんの月齢が近いこともあり、お母さん同士もすぐに打ち解けていた様子です。今回の講師はNPO法人ならしの子ども劇場に所属している現役保育士の中谷さんです。お母さん達は、歌にあわせてアクションをつける遊びや、ハンカチを使い動物や果実を作るなど、身近なものを使った遊びを教わっていました。赤ちゃんの興味をひきまきスキップをとることで、動作と言葉が一致でき理解してくるそうです。月



齢と遊びの関連性や水分補給のポイントなど、お母さん達は赤ちゃんと一緒に遊んでいるうちに講義を聞いていました。終わる頃にはすっかり仲良くなり、お互いに「また来週ね」と声をかけあい帰って行きました。このような講座は、子育てを支援する為に取り組んでいる公民館事業です。公民館によっては講座の名称は異なりますが「育児講座」、「親子のふ



れあい講座」などがあります。また、母親だけでなく父親対象の講座も行われている公民館もあります。核家族化や少子化の中で、孤独になりやすい母親の為に、仲間作りや情報交換の場所になりたいという趣旨もあります。

仲間が出来ることで、少し気持ちが軽くなるかもしれません。一度参加してみたいかがでしょうか。

## ◆「父の日」の起源

6月の第3日曜日は「父の日」です。「母の日」よりも馴染みが薄い感じがしますが、歴史的にはあまり変わりません。

「母の日」はアメリカのフィアデルフィアのアンナ・ジャービスという女性の母が、1905年に亡くなった母の命日に、教会で「母の日」を祝ったのが起源というのは知っている人も多いでしょう。

6月の「父の日」もアメリカで生まれました。1909年にワシントン州のソナラ・ドットという女性が教会で「母の日」の説教を聞いて、「父の日」もあるべきだと考えたのです。それは母親を亡くした後、父親がソナラと5人の兄を男手ひとつで育ててくれたからです。南北戦争後の酷く貧しい時代、再婚もせず自分達へ深い愛情をそそいでくれた父親に心から感謝したいと思ったのです。ソナラは自分が通っている教

会の牧師に頼み、父の誕生日である6月19日に「父の日」を祝う礼拝をしてもらいました。これがもとで、ワシントン州では6月の第3日曜日が「父の日」となったのです。その後1972年にアメリカの国民の祝日として定められ今日に至っています。

さて、「父の日」には「黄色のリボン」が付きものです。それはイギリスでは古来より黄色は身を守る為の色とされてきました。その考えがアメリカに渡り愛する人の無事を願う「幸福の黄色いリボン」となり、アメリカで定着し、日本でも用いられるようになりました。

父母の愛情の深さには、時代や国境は関係ないという事でしょう。また感謝する気持ちも同じなのではないでしょうか。

